

国内外で活躍しているCCCのHUB登録クリエイターが、それぞれの世界をエッセー形式でレポートしています。

～モノづくりに携わるクリエイターとして思うこと～

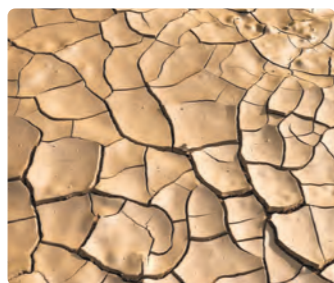
CCCプログラム・ディレクター 鈴木 啓子

私がデザインに携わり始めた1980年後半から90年初頭にかけて、日本はバブル景気の真只中。消費することは消費者にとっても生産者にとっても美德だった。当時勤めていた事務所では、メーカーの新製品づくりのために新しいデザインを次から次へと休むことなく生み出していた。使う素材がどうやって作られているのか、又、製品として役目を終えたあと、どうやって処分されるのか、そんなことに想いを寄せる余裕はなく、私は、特に疑問を持たずにボスに言われるまま、ひたすらデザインしていた。ある意味で、デザイナーとして醍醐味さえ感じていたのだ。今、考えると「もしかして、自分は多大なごみをデザインしていたのではないかと…」と恥ずかしくなる。

それから30年経ち、時代は大きく変わった。2015年の国連サミットで採択されたSDGsの概念は、もはや世界共通の合言葉となり、それに取組みまない企業や賛同しない消費者は白い目で見られる。2021年のノーベル物理学賞に真鍋淑郎氏らが受賞され、「地球温暖化」への対策が世界の最重要課題として改めて浮かび上がった。このような事実から、これからのモノづくりにとって、資源の再利用・省エネルギー化は避けて通れない課題であること



○○○○○○○○○○○○○○



○○○○○○○○○○○○○○

は明白だ。今、注目を集めているのが、循環型消費という考え方だ。アメリカ発 Loop というブランドは、繰り返し使える専用容器を使って、それを回収・再利用することでごみを出さないライフスタイルを提案している。食品や飲料、日用品など、日本ではイオンと業界トップのブランド24社が連携。日常生活に使う身近な商品だからこそ、その影響力は大きく、より多くの人々の生活に広がる。これまでの使い捨て文化を否定して生まれたこの循環型消費のヒントとなったのが、日本であつて行われていた牛乳瓶の回収だという。

時代は立体的な渦を巻くように動いていると感じてならない。現在の価値観を否定し、過去をヒントにして新たな価値観が生まれる。時代が進むほど、その渦が大きくなって成長していく。その成長渦の先を読むためには、まずはこの宇宙の法則を体感し、過去を振り返り、今や逃れない存在となっている情報化社会に対応し、何より大切な地球環境への配慮が大前提となる。そのうえで、理想の未来を想像しながら現在をデザインし、社会課題の解決に繋げることがモノづくりに携わるデザインクリエイターの役割だと思う。 <このコーナーは個人的見解レポートです>

Keiko Suzuki

インテリア/プロダクトデザイナー
CCCプログラム・ディレクター



鈴木 啓子 (すずき・けいこ)

1984～1994年 東京とミラノのデザイン事務所及び建築設計会社に勤務
1994～2004年 イタリアのミラノにてデザイン教育活動及び日本の伝統産業普及事業に携わる
2004年 帰国 以後、静岡を拠点に活動

デザインの現場ミラノで培われたデザインセンスを静岡の地場製品に反映させ、地域に根差した国際性のある商品作りのお手伝いをいたします。



Instagram



Homepage

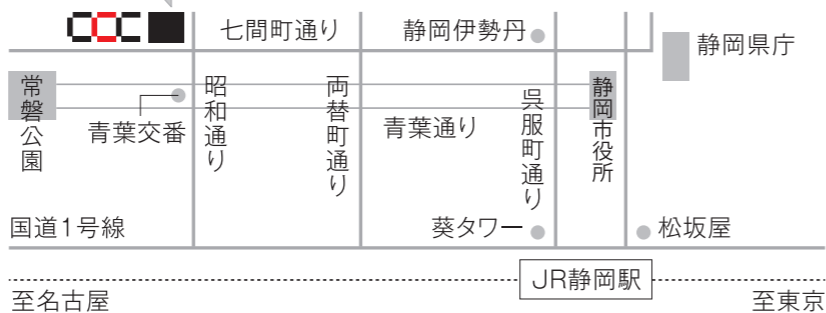
お問い合わせは、お電話またはEメールにて
静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター
〒420-0035 静岡市葵区七間町15番地の1 TEL.054-205-4750 FAX.054-260-4550
info@c-c-c.or.jp https://www.c-c-c.or.jp/
開館時間 / 午前10時～午後9時
休 館 日 / 毎週月曜日および12月29日～1月3日 ※月曜日が祝日の場合、翌日以降の最初の休日以外の日

クリエイティブを、育む、活かす、魅せる。
the center for creative communications

ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。
■JR静岡駅より徒歩約14分 ■静岡新静岡駅より徒歩約13分
■静鉄ジャストライン「東静岡市役所東区役所前」停留所より徒歩約8分、「七間町」停留所より徒歩約2分



専用駐車場はございません。
お近くの有料駐車場をご利用下さい。



子どもの感性を育む！ 落合英男の「あそび教室」2023

9/23(土・祝)「紙ひもを使って遊ぼう！」 世界にたった一つの、私だけの作品ができたよ。

2回目のあそび教室は、紙ひもを使って思い思いに制作を楽しみました。色とりどりの紙ひもをぐるぐる巻いて、形を作っていきます。初めは躊躇していた子ども、落合先生の声掛けや周囲を見ることでだんだん手が動くようになり、最後には夢中になって作業をしていました。動物を作る子、髪飾りや眼鏡を作って自分を飾る子、みんな自分の頭の中に想像したものをカタチにしています。カチカチになったものを先生に見せて一生懸命に説明します。そうやってお互いの作品を見比べて、交換したり、小さな兄弟にあげたりして分けている姿も見られました。次はどんなあそびをしようかな!? 落合先生のあそびのアイデアはいつもいっぱいです。



Cover Photo : ○○○○○○○○○○○○○



○○○○○○○○○○○○○○



○○○○○○○○○○○○○○



○○○○○○○○○○○○○○



○○○○○○○○○○○○○○



VOL.31

NOV.2023

QRコード

